

## 府内におけるタバココナジラミの発生状況とトマト黄化葉巻病防除対策！

平成20年に府内のコナジラミ類の発生分布について調査したところ、以下の結果であった。

- (1) タバココナジラミ類は、オンシツコナジラミとの混発ほ場を含めて、夏期で5ほ場、10.4%、秋期で15ほ場、45.5%（表1の合計）で発生が認められ、過去3カ年の調査と同様に秋期の発生が多かった（表2）。
- (2) 秋期の調査では、北は京丹後市網野町から南は和束町まで府内全域に渡ってタバココナジラミ類の発生が認められた。

トマト黄化葉巻病を媒介するタバココナジラミは、露地では越冬できないと考えられますので、冬の間には徹底的に防除し、越冬を防ぐ必要があります。ついては、次ページ以降を参考にして必要な対策を講じてください。

表1 府内のコナジラミ類の発生ほ場率

発生種	平成20年夏期(6月)		平成20年秋期(10月)	
	ほ場数	ほ場率(%)	ほ場数	ほ場率(%)
タバココナジラミ	2	4.2	10	30.3
オンシツコナジラミ	15	31.3	14	42.4
タバココナジラミ + オンシツコナジラミ混発	3	6.2	5	15.2
発生なし	28	58.3	4	12.1
合計	48		33	

表2 コナジラミ類の発生ほ場率の推移(平成18年～20年)

発生種	山城地域(%)						丹波・丹後地域(%)					
	18年夏	18年秋	19年夏	19年秋	20年夏	20年秋	18年夏	18年秋	19年夏	19年秋	20年夏	20年秋
タバココナジラミ	44.1	61.9	17.2	40.0	8.3	35.7	0.0	21.7	22.6	13.0	0.0	26.3
オンシツコナジラミ	11.8	9.5	13.8	30.0	29.2	35.7	16.7	30.4	3.2	52.2	33.3	47.4
タバココナジラミ + オンシツコナジラミ混発	8.8	28.6	17.2	26.7	12.5	21.4	0.0	8.7	3.2	8.7	0.0	10.5
発生なし	35.3	0.0	51.7	3.3	50.0	7.1	83.3	39.1	71.0	26.1	66.7	15.8

## 京都府内におけるトマト黄化葉巻病の発生状況と対策について

平成 17 年 12 月に府内で初めてトマト黄化葉巻病が発生した。その後、現在までに府南部の 9 箇所のハウスで発生を確認している。平成 19 年 10 月以降に発生したハウスで、その後の発病株率の推移を確認したところ、初発生確認時に 6%～19%であった発病株率が、タバココナジラミが少発生であったにもかかわらず、収穫後半には 40%～100%と急激に増加する事例も認められた。なお、**平成 20 年秋期以降は、山城地域の 1 箇所で 11 月にトマト黄化葉巻病の発生が認められている。**

トマト黄化葉巻病は、タバココナジラミ類が媒介するウイルス病で、ハサミなどによる汁液伝染や種子伝染及び土壌伝染の心配はない。

現在、国内で問題となっているタバココナジラミには、従来シルバーリーフコナジラミと呼ばれていたバイオタイプ B と平成 17 年 10 月に府内で新たに発生が確認された**バイオタイプ Q**がある。

については、基本事項に留意の上、現在のハウスの状況に合わせて以下のように対応する。

### 基本事項

トマト黄化葉巻病の発生・拡大を防ぐためには、「**トマト黄化葉巻ウイルスの伝染源を絶つ**」ことが必要である。そのためには、トマト黄化葉巻病発生ハウスでは**発病株の抜き取り**を行うとともに、**タバココナジラミ防除**のための防虫ネットや黄色粘着ロール及び農薬等を組み合わせた「総合的害虫管理」が重要である。

- (1) 施設内にウイルス・コナジラミを「**入れない**」。
- (2) 施設内・施設周辺のコナジラミを「**増やさない**」。
- (3) 施設内からコナジラミを施設外に「**出さない**」。

### 1 栽培が終了または終了が近いハウス

- (1) 栽培が終了したら、直ちに出入口やサイドなどの**ハウス開口部を 2 週間程度開放し、寒さにあてコナジラミの越冬を防止**する。
- (2) **トマト残さや雑草**はコナジラミの越冬に有利に働くのでハウス内から**除去**する。
- (3) ハウス開放 1 週間後に黄色粘着板を設置し、コナジラミの残存状況を確認する。

### 2 栽培中のハウス

- (1) コナジラミの密度の上昇が緩慢なこの時期に農薬散布を行い、できるだけ発生量を減らしておく。
- (2) **薬剤がかかりやすいように整枝、せん定**を行う。
- (3) **黄色粘着板を設置し、コナジラミ類の発生動向の把握**に努める。
- (4) ハウス内の**雑草を除去**する。

### 3 これから栽培を始めるハウス

- (1) 施設の**開口部**(サイド、出入口、天窓等)を目の細かい(目合い**0.4mm**が理想)**防虫ネットで被覆**する。
- (2) **黄色粘着ロール**をハウス開口部等に**展張**する。
- (3) **黄色粘着板を設置し、コナジラミ類の発生動向の把握**に努める。
- (4) 施設栽培では、**近紫外線カットフィルム**の利用が有効である。
- (5) 育苗時や定植時に**粒剤**を施用するなど防除を徹底する。
- (6) 発病の疑わしい株は定植しない。
- (7) ハウス内及びほ場周辺の**雑草や野良生えトマトの除去**を徹底する。

### 4 トマト黄化葉巻病が発生しているハウス

- (1) **発病株**はトマト黄化葉巻ウイルスの伝染源となるので、**見つけ次第抜き取る**。抜き取った株は、土中に埋めるかビニールなどで覆って枯死させる。
- (2) トマトの残さをほ場周辺に放置しない。また、ハウス内の雑草を除去する。

- (3) 栽培終了時に、全ての株を地際から切断するか抜き取った後、ハウスから持ち出し、(1)に準じ処分する。  
その後、施設を開放(2週間程度)し、寒さに当てコナジラミを死滅させ、その越冬を防ぐ。
- (4) 現在、栽培しているトマトの株元に次作の苗を定植しない。

**農薬の使用について**

- (1) 登録農薬に対する薬剤感受性の低下を回避するため、**同じ農薬及び同一農薬グループに属する農薬の連用は避ける。**
- (2) 農薬の使用に当たっては、農林水産省ホームページの「農薬コーナー」で最新の農薬登録情報を参照し、適正に防除する。
- (3) 下葉の裏側まで薬剤が十分にかかるように散布する。

表3 トマトのコナジラミ類に効果的な農薬一覧

農薬グループ	農薬名	剤型	使用基準		コナジラミ類	効果*2
			使用時期 【収穫 日前まで】	使用回数		
【土壌施用剤】						
ネオニコチノイド系剤	アルバリン スタークル	粒剤	育苗期 定植時	1回		成虫
	ベストガード		生育期 但し、収穫前日まで 播種時又は鉢上げ時			
その他剤	チェス	粒剤	育苗期 育苗期後半	1回		成虫
【茎葉散布剤】						
ネオニコチノイド系剤	アルバリン スタークル	顆粒水溶剤	前日	2回		成虫
	ベストガード	水溶剤	前日	3回		成虫
IGR剤	アブロードエース	フロアブル	前日	3回		幼虫
その他剤	アフーム*1	乳剤	前日	5回		成虫
	チェス	水和剤	前日	3回		成虫
		顆粒水和剤				
ハチハチ	乳剤	前日	2回		幼虫	
天然物由来剤	スピノエース*1	顆粒水和剤	前日	2回		幼虫
殺ダニ剤	コロマイト	乳剤	前日	2回		幼虫
	サンマイト	フロアブル	前日	2回		幼虫、成虫
生物農薬剤	ポタニガードES*1	乳剤	施設:発生初期	-		幼虫、成虫

\*1 但し、アフーム乳剤とスピノエース顆粒水和剤については、トマトの登録はあるが、コナジラミとしては登録適用されていない。また、ポタニガードESは、野菜類として登録されている。

\*2 効果については、京都府農業総合研究所と京都府病害虫防除所による薬剤効果試験結果から判定。

\* トマト黄化葉巻病の発病が疑わしい株を見つけた場合は、病害虫防除所または最寄りの農業改良普及センターまで連絡してください。